

2019(仏暦2562)年 夏8月号 (第108号)

# 万行寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派 万行寺

住職 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1

電話 0267-67-2460



## Photo

夏の青空に、ヒマワリがよく似合います。雨も降り、天気も良い日が続いたので、猛暑の中でも元気に育っています。

## 年忌法要表

1周年忌	2018(平成30)年	23回忌	1997(平成9)年
3回忌	2017(平成29)年	25回忌	1995(平成7)年
7回忌	2013(平成25)年	27回忌	1993(平成5)年
13回忌	2007(平成19)年	33回忌	1987(昭和62)年
17回忌	2003(平成15)年	50回忌	1970(昭和45)年

# 住職 法話

## 後に生まれんひとは

## 前を訪え

お盆の月です。今年も、新盆あらぼんのお参りなどのお願いでご自宅へ伺うことが多々ありました。

このお盆中に、初めて行くお宅がありました。車のナビが案内してくれていても、細かい道が分からなくて迷ってしまい、家の方に出てきてもらう始末です。新しく布教活動をさせて頂いていると、自然と初めて行くお宅ばかりで、よくある話です。

また、四十九日法要で数ヶ月前に初めて伺ったお宅の、新盆あらぼんのお参りがありました。これは、二度目の訪問で、おおよその方向もわかりますので、近くに行ったらナビでも

使えばと用意はしていきまし  
た。ところが、家に近づくと  
ハッと気づいて、この道あの  
道と通った道や景色の記憶が  
よみがえってき、ナビも使  
わずに家にたどり着くことが  
出来ました。皆さまもそうい  
った経験ないでしょうか。初  
めて行った時に、無意識に景  
色を確認し記憶していたのだ  
と思います。

仏事に関しても、亡くなら  
れた方をご縁にして、節目節  
目で確認を思い起こすこと  
が大切です。大切な方で忘れ  
ることはないと思えますが、  
仏事をご縁に確認をして思い  
起こすということをしてい  
かないと、人は忘れ去られてし

まいまず。  
前に生まれんものは  
後を導き  
後に生まれんひとは  
前を訪え

### 前を訪え

これは、親鸞しんらんさまの著『教行信証』の中で、安楽集あんらくしゅうを引用されているところ  
です。「前に生まれるものは後のものを導き、後に生まれるものは前のものあとを尋ね」と、途切れることなく、往生浄土のための助けをした  
いと言われます。いづれ後に往生するであろう私たちは、先立たれた方々の御跡みあとを思い起こして尋ねることを続けて  
いかなないと途切れてしまう  
のです。

また、私たち僧侶は、普段お読みするお経は暗記しています。しかし、読経どきょうとは、経本を頂いて開き、字を目で追って読み称えるということ  
です。学校の国語の音読と一緒に。大切なお経を、常に一字一句、確認をしながら読ませて頂いています。  
景色の記憶、先立たれた方の御跡みあと、そして読経どきょうと、全て思い起こして確認をしていくことは、何かと忘れっぽい私  
たちにとって大事なことな  
でしょう。



浄土真宗

### ④ 仏事の色口ハ

一、お仏壇のお飾り

— 仏さまを仰ぐ —

#### 【仏具の配置】

お飾りの基本形はこれで決まり！

お仏壇の中の仏具をどう配置するか、つまりお飾りの仕方ですが、このことがあいまいなまま自己流で置いておられる方が意外に多いようです。正しいお飾りを知ることによって、すっきり整ったお仏壇になってください。

お飾りする意味は、阿弥陀さまの眞実心(まことこころ)を、形を通して味わうことにあります。美しくお飾りすることにより、仏さまのお心に触れ

させていただきます。お飾りする対象をくれぐれも間違わないように…。

具体的に仏具の配置を上・中・下段に分けて述べてみましょう。

#### 【上段】

上卓に四具足を置きます。四具足は、左右対称に華瓶一對・正面手前に火舎・その後ろに燭台(ローソク立て)を置きます。〈写真参照〉さらに、お仏飯をお供える場合は、仏飯台を用いず、お仏飯一對を火舎の両側や奥

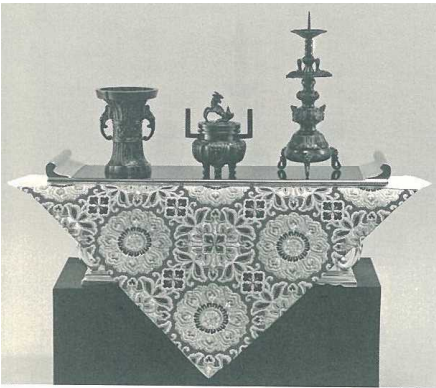


四具足

に供えます。

上卓が小型の場合は上卓に華瓶一對と火舎を置き、火舎の奥正面にお仏飯を供えます。上卓に華瓶と火舎を置くことによって、仏飯器をのせるスペースがなくなる場合は、ご本尊のすぐ前に仏飯台を置いてお供えすればよいでしょう。

また、上卓がない場合はご本尊のすぐ前に仏飯台を置き、お仏飯を供えます。また、須弥壇上に供物を盛



三具足

る供筒(華束) あるいは高杯を、左右対にして置きますが、スペースがなければ、お飾りが乱れない程度に、前卓の両隣りに置いてよいでしょう。(供物を盛らない時は撤去しておく)

#### 【中段】

前卓と言われる卓に、灯明(ローソク)・お香・お花を供えるための三具足を置きます。三具足とは、向かって右から燭台(ローソク立て)、香炉、花瓶の三つの仏具を言います。このうち香炉は、通常、手前に土香炉、その奥に香炉台を置いて金香炉を載せておきます。土・金の両香炉を前後に並べて置けないような場合は、通常、使用する香炉だけを置きます。

この三具足の位置がきちんと定まると、お仏壇もすっきり

りして置くことでしょう。

また、お仏壇が小型の場合、中段に三具足を置くことと本尊が隠れたり、ローソクの火が他に燃え移る恐れがあるものもあります。そんな場合、前卓（じよく）下段に置くか、前卓が固定式ならば、直接、下段に置くこともやむをえないでしょう。

なお、報恩講や年忌などの法要時には、花瓶とローソク立てをそれぞれ一対にした五具足でお飾りします。へなければ三具足（みつぐ）

【下段】

御和讃卓（ごわさんてい）に御和讃箱を載せ、左側には御文章箱、右側には過去帳台やリンを置きます。（お勤めの時、リンは右膝の斜め前あたりに置く）

この他に、お飾りとして金

灯籠や輪灯、璽珞、打敷などがあります。要はそれぞれのお仏壇に合った大きさの仏具を用い、不要なものをお仏壇の中に入れてはいけないことです。

お仏壇の大きさや造りの違いで、実際に写真のように置けないことが多いかもしれませんが、そんな場合のヒントを申ししましょう。お飾りの基本は、灯・香・華の三具足の位置を仏さま中心に整えることです。また、お仏飯はご本尊の真ん前に供えるよう心がけることです。

ポイント

▼仏具は定められた位置に

▼お飾りの基本は灯・香・華の三具足

「浄土真宗 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より

万行寺門信徒会会員の皆様へ

万行寺は皆様の会費によって支えられています。本年度分を早速に納めていただき、誠に有難うございました。本年度分の本山と長野教区への賦課金納入にあてます。ご案内を差し上げておりますが、まだ未納の方におかれましては、何卒、ご理解、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

編集後記

不定期の発行になって、春号はお休みしてしまい申し訳ありません。◆「仏事のイロハ」は難しい専門用語が多くなりましたが、本の内容をそのまま掲載しました。ご家庭により、お仏壇の様式は様々ですから、参考程度にお読み下さい。また私がお参りに伺った時でも、話題にして質問してみして下さい。◆お寺のメールアドレスを下のように変更しました。スマホへ直接届くようにして、確認し忘れを防ぐためです。登録されている方は変更をお願いします。

